



TopEye

2021 夏号

もうすぐ
締切!!

第69回ニッコールフォトコンテスト 第4部

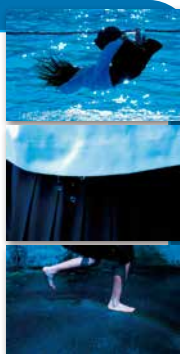
TopEye&kids

[応募締切] 2021年7月6日 必着!

[入賞発表] 『TopEye』2021年冬号誌上

応募票は前号同封のものを使うか、
以下のサイトからダウンロードしてください。

www.nikon-image.com/activity/nikkor/ncpl/



第68回 第4部
ニッコール大賞「爽快」
村松 真帆 さん

2つのコンテストを今年度もヨロシク!

この秋
スタート

第196回 TopEye

フォトコンテスト

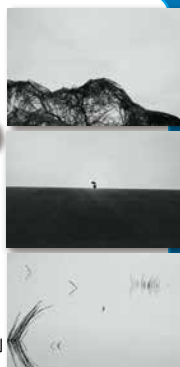
11月から作品募集開始!

[応募期間] 2021年11月~2022年1月13日 必着!

[入賞発表] 『TopEye』2022年春号誌上

応募要項・応募用紙は次号に同封予定です。

第195回
TopEye賞「冬」
松崎 柚 さん



コンテストを通して 「世の中」を観よう

プロの評価を通して、自分の今の力を知る。これもコンテストの意義ですが、入賞作品を通して人々の視点を追体験するのも非常に面白い体験です。特にこれら二つのコンテストは、皆さんと同世代の作品が集まります。その中で自分がどんな立ち位置にいるのかを確認することも、次の作品のヒントになります。ぜひコンテストの輪に参加し、優れた作品や審査員のコメントをじっくり見てみてください。

TopEyeフォトコンテスト審査員

熊切 大輔 氏



キミだから撮れる
作品、待っています!

三つの「たくさん」を大切に!

写真がうまくなる方法は、「たくさん撮る」「たくさん観る」「たくさん人に見せる」の繰り返し。フォトコンテストは、この三つを経験できる良い機会です。皆さんの作品からは、仲間と楽しみながら撮っているのが伝わってきます。その気持ちを大切にたくさん撮って、ドキドキしながら見せに来てください。入賞も大きな目標だと思いますが、一所懸命続けていけば、きっといいことがありますよ!

TopEyeフォトコンテスト審査員

藤岡 亜弥 氏



次ページにお二人の対談掲載!

「TopEyeフォトコンテスト」受賞作品(一部)の鑑賞や誌面のダウンロードができます。ぜひご覧ください!

ニコントップアイ

検索



熊切大輔 × 藤岡亜弥



藤岡亜弥写真展「花のゆくえ」より



第195回「TopEye フォトコンテスト」審査の様子

「今」を切り撮る中高生たちへ

「TopEyeフォトコンテスト」の審査員であるお二人も、プロとはいえ皆さんと同じ写真仲間です。どんな思いで、どんな風に撮っているの？そして、このコロナの時期をどう捉えているの？気になることを、いろいろ聞いてみました！

「基本はフラフラ、キョロキョロ」

被写体の探し方、テーマの決め方

—— お二人はどのように写真を撮っていますか。

熊切 僕は街のスナップがメインなので、とにかく延々と歩きます。計画的にはなく、写真展巡りで次の会場に着くまでの道とか、打ち合わせまでの時間とか。常にキョロキョロと視界をチェックする感じ。

藤岡 私もです。何かの合間にフラフラ歩き、周りをなんとなくスキャンして、気になったものを撮る。

—— 被写体に何か「好み」はあるんですか。

熊切 光と陰のコントラストや、ビビッドな色かな。あとはオブジェをどう面白く見せようか、とか。

藤岡 私は撮る時には自覚はないけど、撮りためたものを眺めると、自分の潜在的なフェティシズムみたいなものが分かることがあり、その後意識して撮ったりします。一時期は「手」をたくさん撮ってました。

熊切 奇遇ですね、僕は「足」が多い(笑)。足元。

藤岡 あら。そうなんです(笑)。

熊切 2018年の写真集「刹那 東京で」には、雑踏の足元を狙って撮った写真もたくさん出てきます。

—— この写真(↓)すごいですね。どうやって撮ったんですか。

熊切 「置きピン」といって、ある地点にピントを合わせ、ひたすら待つ。そこにたまたまこの足が来てくれた。探す努力と撮る備え、そして運ですね。



熊切大輔写真集「刹那 東京で」より

「たくさん撮り、たくさん捨てる」

最近の活動から

—— 今年ご出版の『東京美人景』は、また違った雰囲気ですが…。

熊切 僕はずっと「東京を切り撮る」と「人の介在」をテーマにスナップを撮っています。この写真集もそうで、



審査員 藤岡亜弥

広島県生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒業。主な作品に、「さよならを教えて」「私は眠らない」国内外での個展など多数。2017年に出版した写真集「川はゆく」で伊奈信男賞、林忠彦賞、木村伊兵衛写真賞受賞。



審査員 熊切大輔

東京都生まれ。東京工芸大学を卒業後、日刊ゲンダイ写真部に入社。その後フリーランスの写真家として独立。広告や雑誌などで「人」が生み出す瞬間・空間・物を対象に撮影する。最近の写真集は「刹那 東京で」「東京美人景」。公益社団法人日本写真家協会理事

大学の卒業制作で取り組んだ「女性を街に溶け込ませて撮る」というテーマの再アプローチです。

藤岡 私の写真教室の生徒さんに紹介したら「風景の中の立たせ方など、勉強になる！」と大評判ですよ。

熊切 ありがとう！(笑)ポートレートは背景をぼかすことが多いけど、その人と縁が深い街を見せることで、彼女たちの内面を表現することを狙いました。藤岡さんは5月、「花のゆくえ」という個展を開催しましたね。

藤岡 今までの作品を改めて眺め、花が写っているものを時代順に並べた写真展です。美しさを捉えたものだけでなく、人からもらった大切な花が枯れ、捨てる前に撮ったものもあります。「花」を通して、生活の中のささやかな意欲が写っていると感じました。

—— 藤岡さんが写真集や写真展で重視するのは？



藤岡亜弥写真展「花のゆくえ」(2021年5月1日～5月30日 東京で開催)

「テーマからの脱線も面白いじゃない？」

コンテスト審査に思うこと

—— TopEyeフォトコンテストに寄せられる作品を見て、どう感じますか。

熊切 綿密な計画に沿って撮った作品が多い気がします。それも写真の面白さですが、もう少し脱線しても良いのでは。子供を撮っていて急に猫が気になるとか、興味の変化を自分で受け入れ、展開してみる。「自分のテーマはこれ」と意識し過ぎない方がいいんじゃないかな。

藤岡 テーマがしっかりしすぎると、足かせになることもありますね。私は「ヒロシマ」についての写真集をつくった



熊切 大輔 著
『東京美人景』
日本カメラ刊 2,200円(税込)
東京の個性あふれる様々な街で、その街にゆかりのある女性の姿を切り撮った写真集。写真誌「日本カメラ」での2年間にわたる連載の集大成です。

お求めはWEBショップで
「k2labo store」
k2labo.official.ec



藤岡 亜弥 著
『アヤ子 江古田気分』『my life as a dog』
2冊組 5,000円(税込)
大学時代の写真を中心にまとめたエッセイ入りミニ写真集。下宿の大家さんとのエピソードや卒業制作など、藤岡先生の感性の原点が詰まった2冊組です。

お求めはWEBショップで
「Atelier Foco」藤岡亜弥コレクション
ayafujioka.net/shop



時、あまりにテーマが大きいので、何を撮ればいいのか悩んでしまっ。その時ある人に「先人の影を追わず、あなたとヒロシマの関係を撮れば良い」と言われ、日常をコツコツ撮ることで作品になりました。

熊切 自分なりの追いかけ方があるはずですよ。

藤岡 それから、作品を出品する際には「見せる」ことをしっかり意識して欲しいと思います。特に、プリントが軽視されがちなのが気になっています。用紙の選定もそう。A4と2L判では、やはりA4が目が行ってしまう。すぐもったいないと思います。

「写真は「写真がすべて」ではない」

コロナの状況下での写真活動

—— 今、コロナのため思うように活動できない学校が多いようです。そんな皆さんにメッセージを。

熊切 写真は、人と時代を写すもの。誰もがマスクをするこの状況だって、時代の象徴として残す価値がある。「今」だから撮れるものを探るのは、楽しいと思います。

藤岡 写真って、「写真がすべて」ではないと思うんです。外で撮れない分、家で映画を見たり本を読む。科学的な探究もいいですね。そうして得た知識や感じた感情などは、すべて作品の糧になります。

熊切 これまでしなかった経験はものの見方を変え、人間力も磨きます。新しい撮影アイデアも出るかも。

藤岡 それから、自分でも頑張りたいと思うのは、文章を書くこと。書くことで自分の思考が分かるし、自分なりの哲学の発見にもつながります。それが写真にも影響するはずだし、自分の撮り方も見つかるかも知れません。

いろいろあるけど、がんばってます！

写真部 近況報告特集

まだまだ各地で、自由に活動できない日々が続いています。でも、できることはたくさんある！今回も、いくつかの学校に「今どうしてますか？」と聞いてみました。

※掲載内容は5月上旬までの状況です。



神奈川県立瀬谷高等学校

県の方針を踏まえて活動を工夫

顧問：石川 順一 先生



水泳部の協力のもと、カラのプールで撮影会！



横浜港付近を歩き回って撮影会。

1学期はほぼ毎日活動できました。県としても県内での部活動は認めているため、5月2日に横浜港界隈に撮影会に行ってきました。6月中旬に県高写真連盟主催のコンテストも行われる予定です。

校内の撮影活動も工夫しており、先日は水泳部の協力を得て、プール清掃の日に撮影会を行いました。部員個人単位でも撮影活動に取り組んでいます。

おかげさまで、全国高総文祭に9年連続出場が決まりました。今後もみんなで活動を盛り上げていきます。



八代白百合学園高等学校 (熊本県)

撮影技術や「観る力」の訓練も

顧問：中西 琢也 先生



県高文連のオンライン講習会にも参加。

個人の取り組みとして「フォトブック」を制作。セレクトから製本まで自分で手がけ、組写真の練習にもなっています。

活動日は毎日ですが、教室を1つ増やしたほか、1人あたり週1日の休養日を設け、活動時間も制限して「密」対策にしています。校外撮影会も、感染拡大地域を避けつつ慎重に。とにかく今は感染回避を最優先。この機会にTopEyeの過去作品などを題材とした「観る」勉強や、技術向上に力を入れています。



東京都立総合芸術高等学校

不自由な活動条件でのがんばりに希望

顧問：大久保 至 先生

現在は、各部員の行動範囲での撮影活動が中心で、週に1度だけネットを通して作品確認を行っています。細やかな感想や技術的な指導等のアドバイスのみですが、ポテンシャルの高さには非常に感心させられます。



結果はともかく、好奇心を持ちながら撮影しています。



帝塚山学院中学校高等学校 (大阪府)

自主活動やコンテスト出品に全力！！

顧問：藪 直隆 先生

大阪府は4月から部活動休止の状況のため、部員それぞれ家庭などでの自主撮影を中心に活動。校内の作品展示やコンテスト出品など、できることをガンバっています。早くみんなで外に撮りに行きたい！！



昨年唯一できた校外撮影会 @淡輪・りんくうビーチ。



府の芸文連も、秋のモデル撮影会のみ開催。



お気に入りの屋上撮影も、今はガマン。



中越高等学校 (新潟県)

熱血派からゆる派まで思い思いに活動

顧問：松田 浩明 先生

新潟県のコロナ状況は現在それほど厳しくないため、部の活動制限も軽めにしており、県高文連の行事やコンテストにも参加しています。

ただ、部の全員参加行事は4月の新入生歓迎会くらい。週末は希望者を募って車で1時間ほどの所へ撮影に行きますが、これまでお世話になっていた工場や施設など、訪問を控えている場所もあります。

撮影指導は、ずっと同じ撮り方をする生徒が多いため、設定や立ち位置、アングルを「変えてみたら？」など、違う可能性に気づくよう声をかけています。

大募集!!

あなたの部の写真活動をレポートしてください!

全国にアピールしたい貴部の活動について、メールで概要をお送りください。後日ご連絡し、記事候補として取材させていただきます。①学校名 ②クラブ名 ③顧問の先生のお名前 ④ご連絡先電話番号をご記入の上、下記のEメールアドレスまで!

Information

第45回全国高等学校総合文化祭 紀の国わかやま総文2021

開催期間：7月31日(土)～8月6日(金) (写真部門行事 8月1日～5日)

写真部門会場：和歌山県立橋本体育館

今年も高総文祭の夏がやってきます。写真部門は県北部の橋本市を中心に開催。風光明媚な九度山、高野山、和歌山市内での撮影会を予定しており、写真展では全国から寄せられた高校生の力作写真を一挙展示します。

wakayama-soubun2021.jp/bumon/photography



大会マスコットキャラクター「わいっぴん」



第45回全国高等学校総合文化祭 写真部門優秀作品展

今年の高総文祭に寄せられた作品のうち、優秀作品をニコプラザで展示。全国の仲間の手力作を、今後の活動の糧にしよう!

東京 8月31日(火)～9月13日(月)
ニコプラザ東京 THE GALLERY

大阪 9月16日(木)～9月29日(水)
ニコプラザ大阪 THE GALLERY

※両館とも 10:30-18:30 日曜休館 最終日は15:00まで

『TopEye』へのお問い合わせはこちらまで。

ニコントップアイ編集部 (株式会社 ニコン イメージング ジャパン)

E-mail: topeye@nikon.com

TEL: 03-6718-3020

次号は 11月15日発行予定です!

第69回ニコールフォトコンテスト「TopEye&Kids」部門受賞者&作品発表!!